

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年8月分）

【製造業】生産の持ち直しの動きがみられる

- 製造業は、6月の鉱工業生産指数では、主な産業の全てで上昇した。ヒアリングにおいては、7月から回復傾向にあるとの声や、受注及び売上は9、10月には例年程度まで回復するだろう、との声など、回復基調にあるという声が多くあった。

【地場産業】生産の落ち込みが続いている

- 地場産業は、6月の鉱工業生産指数では、食料品とパルプ・紙を除いて低下した。ヒアリングにおいては、4月に比べれば状況は改善されたが、前年同時期と比較し半分程度の売上に留まる、との声が聞かれるなど、以前として厳しい状況にある。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、7月の金属工作機械受注額について、前年同月を下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは20ヶ月連続、海外向けは21ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、設備は老朽化しているものの、先行きが不透明につき様子見をしている、などと、設備投資を控える動きが目立った。

【個人消費】消費は堅調に推移するが、業態により動向に差が見られる

- 個人消費は、小売店の7月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターや家電大型専門店等の販売が増加し、全体では前年同月比で6ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、自粛期間の後の反動需要の終わりを指摘する声が聞かれた。

【観光】新型コロナウイルスと豪雨の影響により落ち込んでいる

- 観光は、前年と比較し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。インバウンドは、ほぼゼロに近い数字となった。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大の第2波や豪雨によるキャンセルの影響が大きかった、という声が目立った。

【資金繰り】運転資金需要が旺盛だが、足元の新規貸出では一服感がみられる

- 企業の資金繰りは、7月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、5～7月までは借入の申込が多かったが、8月には落ち着きが見られ、資金調達が一巡しつつあるのではないかと、という声が聞かれた。

【雇用】雇用環境の悪化が続いている

- 雇用面は、7月の有効求人倍率は、1.24倍と7か月連続で低下した。ヒアリングにおいては、生産回復が想定より早く人手不足との声もあったが、受注が激減し人手が過剰になったとの声や人材派遣会社の売り込みが頻繁にあるなどの声が多く聞かれた。

【景気動向】

- 6月の景気動向指数（一致指数）は4ヶ月ぶりに上昇したものの、7月の中小企業の景況感は再び悪化した。